

第5回 WHO 災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク代表者(コアグループ)会議、WHO 神戸センターフォーラムに登壇しました(2023/11/14)

テーマ：健康危機・災害リスク管理に関する研究の普及と推進
会場：WHO 神戸センター、兵庫県立美術館（神戸・日本）

2023年11月14日に神戸市で開催された第5回 WHO 災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク代表者（コアグループ）会議と、ひきつづいて開催された WHO 神戸センターフォーラム2023に災害医学研究部門の江川新一教授が登壇しました。

WHO は仙台防災枠組の健康面を社会に実装するために、災害・健康危機管理枠組 (Health EDRM Framework) を 2019 年に公開しました。WHO 神戸センターは WHO 本部に所属する世界で唯一の研究開発センターとして活動しています。WHO 神戸センターは 1995 年の阪神淡路大震災のあとに、神戸市の沿岸沿いに兵庫県立災害医療センター、人と防災未来センターなどとともに設立され、神戸の復興のシンボルともいえる存在です。仙台防災枠組は、災害が健康に被害を与えるということを初めて明文化した防災枠組ですので、WHO は災害が人々の健康に与える影響を低減することをめざしています。2019 年は COVID-19 パンデミックが始まった年でもあります。WHO は地震や津波、台風、洪水などの自然ハザードとともに、感染症、放射線、紛争などの人為的ハザードも含めたオールハザードアプローチをとっています。2021 年には健康危機・災害リスク管理の研究に関する WHO ガイダンスが発行され、災害医療の研究者にとって大変有用なガイダンスとなりました。COVID-19 パンデミックに関する内容を加えて 2022 年には Ver.2 にアップデートされ、2023 年 9 月 1 日には最初の英語以外の翻訳版として日本語版が発行されました (<https://apps.who.int/iris/handle/10665/363502>)。

江川新一教授は日本語版ガイダンスの翻訳監修を災害研の研究者、国内の研究者・実務者のチームリーダーとして貢献しました。日本語版ができたことによって、災害医療の関係者だけではなく、異なる分野の防災研究者、実務者にも災害医療の考え方、研究の進め方などを知っていただくのに役立つガイダンスとなっています。これまですべての防災枠組が日本で合意されたように、わが国が多くの災害と向き合い、防災と災害対応の向上に寄与してきたことが世界にも伝わる契機となっています。

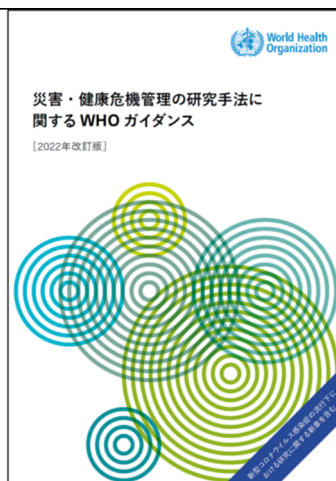
文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医学研究部門）



WHO 神戸センターでの第5回コアグループ会議



兵庫県立美術館での WHO 神戸センターフォーラム



健康危機・災害リスク管理の研究に関する WHO ガイダンス
日本語版ダウンロード先：

<https://apps.who.int/iris/handle/10665/363502>